

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 平成28年12月1日発行 (第8号)

授業の工夫改善を目指して

各学校におかれましては、「温かい学年・学級経営」を基盤とし、「一授業 一手間 一工夫」を心がけ、一人一人の子どもが「なるほど」「わかった」「できた」という『納得解』を実感できる授業づくりを推進していただいていることに感謝申し上げます。

さて、11月には以下のような授業発表会等が開催され、課題解決に向けて様々な取組が行われ、大きな成果が見られました。

いよいよ2学期末を迎え、各学校では、学期のまとめから年間まとめに向けて取り組まれていることと思います。授業発表会での成果をぜひ参考にしていただき、県西地区全体で授業の工夫改善に努めてまいりましょう。

また、補充・発展学習を充実させることで、児童生徒の一人一人に確かな学力の定着を図り、次年度の学年につなげていきたいと思います。

平成28年度学力向上推進プロジェクト事業に係る授業カブラッシュアップ研修国語科重点校第2回授業発表会、協力校授業発表会、算数・数学科協力校授業発表会

《重点校》古河市立三和中学校 (国語科) 11月2日(水)

2年生「走れメロス」の教材で、本時の目標を「『走れメロス』の魅力明らかにするために、登場人物の言動の意味などを考え作品を読み深めることができる」、3年生「故郷」の教材で、本時の目標を「『社会の中で生きる人間』についての考えを見直し、自分の考えが変わったことについて交流することを通して、自分の考えを深めることができる」と設定し、授業を行いました。協議では、「生徒が主体的、対話的に活動できる課題を設定するためには、どのような工夫が必要か」を柱に話し合いが行われました。

研究協議を通して、「単元の導入で、生徒たちが自ら疑問に思ったことをふまえて、課題を解決する必要性を意識させながら課題設定すること」、「解決する過程で様々な考えがでること、交流する必要があるような課題を設定すること」の2つのことについて、日々の授業の改善に向けて共通理解を図りました。

さらに、黒田諭調査官からご講話いただいた。「生徒が今まで身に付けてきた力の何をえば、本単元の課題を解決できるのか、生徒自身が主体的に考える場面を設定する」「課題解決に向けて、言葉を駆使し、考えたことを表現・交流する場面を設定する」の2つのことについても自校の授業改善に生かしてください。



【三和中学校の授業の様子】

《協力校》筑西市立下館中学校 (算数・数学科) 11月1日(火)

3年生「相似と比」の単元で、本時の目標を「2つの三角形が相似であることを証明し、証明の必要性に気付くことができる」と設定し授業を行いました。協議では、「図形」領域の証明の指導について、「今日の授業をふまえて改善する」として、どこをどのように工夫するか」を柱に話し合いが行われました。研究協議を通して、「証明の必要性を気付かせる授業展開にするために全国学力・学習状況調査報告書を活用して授業の構想をすること」、「視覚的に生徒に気付かせる問い返しの発問を工夫すること」の2つのことについて共通理解を図りました。

また、学びの広場学習教材を活用した学校の実践例を紹介しました。

- ①ふだんの授業から「行こうー見るー語る」を大切に校内研修をする。その際、学びの広場学習教材を授業の中で活用した実践例
- ②短時間で学びの広場教材を使った音声計算練習実践例
- ③学年ごとにシールをはり、1学期、2学期、3学期の内容を確認。年間指導計画の中に位置付け、学びの広場学習教材を実施した実践例

学びの広場サポートプラン事業を年間を通して15時間程度の補充指導を実施するとともに、授業の中で学びの広場学習教材を活用し、自校の授業改善に生かしてください。



【下館中学校の授業の様子】

《協力校》筑西市立古里小学校 (国語科) 11月9日(水)

1年生「いろいろなふね」の教材で、本時の目標を「乗り物の『やくめ』『つくり』『できること』を表す大事な言葉や文を選んで読み、語と語のつながりを意識しながら、文を書き抜くことができる」、5年生「資料を生かして考えたことを書こう」の教材で、本時の目標を「学校生活に関する資料から収集した情報を生かして、自分の考えが伝わるような文章構成メモを書くことができる」と設定し、授業を行いました。協議では、「『書くこと』(構成、記述、推敲、交流)の力を身に付けさせるためには、どのような工夫が必要か」を柱に話し合いが行われました。

研究協議を通して、「目的に応じて必要な資料を収集し、自分の伝えたいことが相手に伝わり相手が理解しやすいように構成メモに書くこと」「『交流』の視点を明確にし、書く目的と意図に応じた文章構成、表現になっているかどうか具体的に修正すべき内容を指摘すること」の2つのことについて、日々の授業の改善に向けて共通理解を図りました。

さらに、お互いが書き上げた文章のよさを感じ取ることを大切にしながら交流するとともに、相手に助言することによって、自分の考えを広げたり深めたりすることも自校の授業改善に生かしてください。



【古里小学校の授業の様子】

《協力校》古河市立駒羽根小学校（算数・数学科）11月17日（木）

1年生「ひきざん」の単元で、本時の目標を「10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の仕方を説明することができる」、5年生「比べ方を考えよう（割合）」の単元で、本時の目標を「比べる量の割合がどれだけになるかを求めるなどして、もとにする量とその割合から比べる量の求め方を説明することができる」と設定し、授業を行いました。

協議では、「今日の授業から自校の学校に広めたいこと、今日の授業をふまえて改善するとしたら、どこをどのように工夫するか」を柱に話し合いが行われました。

研究協議を通して、「授業のめあてに迫るための問いかけを大切に、具体的な操作をする活動を入れること」、「児童が書いた振り返りから授業のねらいを達成した児童の姿が見られたか確認してみる」との2つのことについて、共通理解を図りました。

古河市立駒羽根小学校が実践している形式的ではなく日ごろの授業の課題解決に結びつく研修、指導案の協働立案、全員で授業実施の流れも自校の授業改善に生かしてください。



【駒羽根小学校の授業の様子】

平成28年度「いばらき理科アイテム開発活用モデル校」授業研究会

桜川市立桃山中学校 11月11日（金）

桜川市立桃山中学校において、いばらき理科教育推進事業の1つである、「いばらき理科アイテム開発、活用モデル校」の公開授業研究会が開催されました。本事業は、平成23年度に県教育委員会及び県教育研究会が共催して作成した中学校新教材「いばらき理科アイテム」を基に、「科学技術イノベーション立県」である茨城県独自の地域素材を理科授業に活かすための教材を開発し、その活用について授業公開を通して教員の授業力向上を目指すという事業です。本校では次のような授業実践が公開されました。

◎ 第1学年「身近な物理現象」 指導者 室町 直樹 教諭
「浮力が体積によって変化することを見いだすことができる」

★新教材「物質の浮力」

◎ 第3学年「化学変化とイオン」 指導者 小林 良久 教諭
「身近にある金属メッキをイオンの動きで説明することができる」

★新教材「電気分解とイオンの動き」

室町教諭は、アルキメデスの原理を基にした浮力の測定を基にした動画を作成し、大洗港の船が海上に浮かぶ理由について実験を通して指導しました。また、小林教諭は、リオオリンピックの金メダルの材質について考え、電気分解におけるイオンの動きを動画で作成し、実際に鉄釘を銅メッキする実験を通して指導しました。

研究協議では、「いばらき理科アイテム」の活用法を中心に協議するとともに、茨城大学教育学部教授 松川 寛 先生より、授業への助言と、観察、実験による科学的な見方、考え方について、簡単な実験を交えてご講話いただきました。児童生徒の興味、関心を高めるための教材開発、活用を通じた桃山中学校の取組を、自校の授業改善に生かしてください。



【桃山中学校の授業の様子】

平成28年度英語教員リーダー育成事業に係る専門指導員の公開授業

常総市立石下西中学校 11月18日（金）

県西管内の中学校から13名の先生方が参加し、授業参観と研究協議が行われました。

内容は、以下のとおりです。

※専門指導員…「英語教員リーダー育成事業」におけるハワイ大学での研修修了者

◎第2学年「Program 7 If you Wish to See a Change」指導者（※専門指導員）染谷 志乃舞 教諭

★ ハワイ大学で学んだ理論を生かした取組

(1) 生徒にとって身近で興味のある話題を取り上げることで、英語で伝えようとする内発的動機付けを図る。

(2) インタラクションにおいては、表現の正確さのみにとらわれすぎないように留意する。

これらのことから、生徒は間違いをおそれず、その場で考えたことを、進んで話したり書いたりしようとするようになり、英語で伝え合うことができる達成感を味わわせながら、コミュニケーション能力の基礎を養う授業を展開しました。

★ 研究協議等における参加者の声より

・常活動でのQ & AやMini Interactive Timeでは、既習表現を活用し、楽しんで対話する生徒の姿が見られました。

・単元を通して身に付けさせたい力が明確で、生徒が英語を使う活動の一つ一つが充実していました。小学校外国語活動で慣れ親しんだ表現を踏まえつつ、第1学年のはじめから、このような指導を継続することで、コミュニケーション能力の基礎が養われるのだと感じました。

・授業のほとんどが英語で進行し、教師の生徒への指示も簡潔でした。限られた時間の中で活動時間が最大限に確保され、生徒の英語で伝えようとする気持ちも高まっていました。



石下西中学校の授業の様子

【12月に実施する専門指導員の中学校での公開授業】

期日	会場校	公開学級	授業者
12月7日（水）	下妻市立東部中学校	3年2組	小出 美沙 教諭
12月9日（金）	筑西市立下館中学校	3年2組	有年 恵一 教諭（県立下館第一高等学校）
			浅野 玲子 教諭（県立下妻第二高等学校）
12月15日（木）	結城市立結城中学校	3年6組	吉原 順子 教諭